

㈱エクスマーションが東証マザーズ上場



組み込み分野における設計支援をするグループ会社㈱エクスマーションの株式が、7月26日に東京証券取引所マザーズ市場に上場されました。

㈱エクスマーションの上場は、自動車関連業界における自動運転分野やEV車両、コネクテッドカー等の設計支援等の受注拡大に向けた組織体制の強化を図ることを第一の目的としており、高度な専門スキル、資質、経験を兼ね備えた優秀な人材の確保に繋がると期待しています。



TTNI-AとFleekdriveの販売代理店契約締結

資本業務提携先の豊田通商㈱の海外ICTソリューション会社であるTT Network Integration Asia Pte. Ltd. (TTNI-A) と6月1日に販売代理店契約を締結しました。まずはTTNI-Aが本社をおくシンガポールからASEAN諸国へ、将来的にはヨーロッパやアメリカなどのTTNIグループのネットワークを通じて「Fleekdrive」シリーズの販路拡大が可能になるものと考えています。

2011年にリリースした「Fleekdrive」シリーズの契約数は順調に伸長しており、国内のみならず、多国籍企業を通じて海外190カ国でご利用頂くなど、グローバル展開に向けての経験と実績を着実に積み重

ねてまいりましたが、豊田通商グループとの連携により、文化の異なる新市場において、確実でよりスピーディーな展開が可能になっていきました。FleekdriveとFleekformのロゴが並んでいます。

㈱アックスと共同でAIワークショップを開始

2017年6月に資本参加した、自動運転やAI分野で優れた技術を有する㈱アックスと共同で、AIをビジネスに活用することを目的とした、機械学習及び推論システムに関するワークショップを㈱ビット・エイ向けに第1回を開催しました。「第3次AIブーム」ではディープラーニングや機械学習といった技術の進歩に伴い、ビッグデータの収集・解析などにAI技術の応用が急速に進み、AI技術の適用領域が広がります。また、デジタルトランスフォーメーションの実現や、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の導入など、AI関連の知見や技術がますます必要とされる社会となり、企業の成長戦略には必要不可欠な技術となりつつあることから、ワークショップを開始しました。

FinTech企業ジーフィット㈱と資本業務提携を締結

金融システムツールを開発・運用するテクノロジストの集団として、システムトレード用アプリケーション運用サービス「シストレクラウド」の運営等を行うジーフィット㈱と、7月13日に資本業務提携を締結しました。システムトレードは、投資家にとって便利な投資方法にもかかわらず、IT知識やスキル、金融商品や相場についての知識が必要なのがハードルとなり、日本での利用が進んでいませんでした。ジーフィット㈱が提供するアプリケーション「シストレクラウド」は、顧客に代わってトレード（導入・設定・保守・運用）するので、簡単にシステムトレードが始められるサービスです。今後は、当社が持つFinTechサービス向けの技術を活用し、取り扱い商品の拡大やサービスメニューの拡張などを行って行く予定です。

資本業務提携先㈱イーアイが東証マザーズ上場

資本業務提携先の㈱イーアイの株式が、6月27日に東京証券取引所マザーズ市場に上場されました。

当社とは、2007年7月に資本業務提携を締結し、当社が事業・営業面での支援を担う一方で、㈱イーアイは当社の成長戦略の一つであるストック型ビジネスの拡充を担うソリューションベンダーとして、数多くの音声合成ソリューションの開発を推進してきました。㈱イーアイのビジネスは、スマートスピーカー「AISonar」の開発や欧州最大手の音声合成企業Acapela Groupと協業契約を締結するなど著しい成長を遂げており、日本の音声合成技術を牽引する企業として、益々の飛躍が期待されています。今後も当社とのソリューションビジネスパートナーとしてストック型ビジネスを推進していく予定です。



【お知らせ】
本社移転

2019年2月12日（火）より新オフィスにて業務を開始しました。



移転先

〒108-0023東京都港区芝浦3-1-21
田町ステーションタワーS 13F
代表番号は変更ありません

IRニュースをメールで通知

決算情報などのニュースをタイムリーにメールで通知します。配信登録における個人情報への入力にはメールアドレスのみです。当社HPよりご登録下さい。

<https://www.solxyz.co.jp>

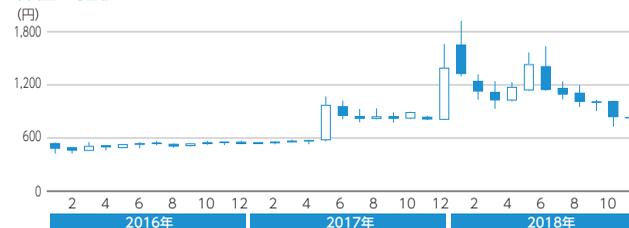


株主メモ

決算期 12月31日
定時株主総会 3月下旬
基準日 毎年 12月31日
配当金受領株主確定日：6月30日及び12月31日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

1単元の株式の数 100株
株主名簿管理人 (兼 特別口座管理機関) 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物ご送付 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL. 0120-232-711(フリーダイヤル)
電話お問合わせ先 電子公告により、ホームページ
公告方法 (https://www.solxyz.co.jp)に掲載します。

株価の推移



会社情報

社名 株式会社ソルクシーズ(東証一部 証券コード:4284)
設立 1981年2月4日
資本金 14億9,450万円
事業内容 SI/受託開発業務(システムコンサルティング、システムの設計・開発・運用・保守)、ソリューション業務(セキュリティコンサルティング、パッケージシステムの開発・販売・保守)及び関連機器の販売等
所在地 (本社) 〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-21 田町ステーションタワーS 13F
TEL. 03-6722-5011(代表) FAX. 03-6722-5021
[東京ANNEX] 〒108-0014 東京都港区芝5-33-7 徳栄ビル8F
[福岡営業所] 〒812-0038 福岡県福岡市博多区祇園町4-2
TEL. 092-283-8411 FAX. 092-283-8412
従業員数 483名(グループ計720名)
システムエンジニア429名、営業スタッフ12名、その他42名
URL <https://www.solxyz.co.jp>
子会社 株式会社エフ・エフ・ソル、株式会社イー・アイ・ソル、株式会社インフィニットコンサルティング、株式会社ノイマン、株式会社teco、株式会社エクスマーション、株式会社コアネクスト、株式会社アスウェア、株式会社インターディメンションズ、アセアンドライビングスクール・ネットワーク合同会社



「そるくん」「あんどくん」はソルクシーズのイメージキャラクターです。



第39期
ソルクシーズ株主通信

2018年1月1日～2018年12月31日

私たちはお客様の夢を実現する
ソリューション・カンパニーを目指しています。
お客様の業務改革を支えるのは、大胆で独創的な発想力、そして、迅速な対応力。

Change, Challenge & Speed



証券コード:4284

2019年は“一陽来復”の年

—V字回復、そして飛躍を目指す年—



前期(2018年12月期)の総括や今後の成長戦略等について、代表取締役社長の長尾章よりご説明いたします。

Q 前期の総括

A 昨年は、米中貿易摩擦問題や台風等の自然災害の頻発など、懸念材料は多かったものの、我が国経済は全体的に緩やかな回復を続けました。国内IT投資は、IoTやAI、自動運転などのデジタルトランスフォーメーション投資を中心に総じて堅調に推移しましたが、依然としてIT業界全体の人材不足の深刻な状況は続きました。

このような環境下、当社が掲げる成長戦略の実現に向けた取り組みとして、①ジーフィット(株)との資本業務提携の締結、②クラウド事業のグローバル展開を目的とした豊田通商グループとの代理店契約の締結、③UiPath(株)との「開発リソース・パートナー・プログラム」の締結、④ITマスタープログラミング教材(小学生向

け)に係るロボットレンタル業務等一式の落札によるロボット事業とプログラミング教育事業の推進、⑤グループ会社(株)イー・アイ・ソルがIoTトータルソリューション「IoT/予知保全システム」の提供開始等を実施しました。また、グループ会社の(株)エクスモーションと資本業務提携先である(株)イーアイの株式が東証マザーズ市場に上場されました。

Q 取り組みと活動状況

A 主力事業であるSIビジネスにおいては、2018年度まで取り掛かった不採算案件の円滑な収束に努めましたが、残念ながら多額の損失を計上することとなりました。当該開発案件は既に検収を終えて稼働しており、今後の業績への懸念材料は全て解消しております。問題点をよく整理し、再発防止に活かしてまいります。

ストック型ビジネスは、企業向けオンラインストレージ「Fleekdrive」が、ベトナムでエンターテインメント施設の企画・運営を行うGaudi Finance Limited(本社：ベトナム ダナン市)に採用されました。

グループ会社においては、(株)イー・アイ・ソルが製造業のお客様向けにIoTトータルソリューション「IoT/予知保全システム」の提供を開始しました。また、(株)エクスモーション及び資本業務提携先である(株)イーアイの株式が上場され、新技術分野、成長分野での業務拡大に向けてグループの財務内容は大幅に改善しました。

ソルクシーズグループでは、お客様のデジタルトランスフォーメーションの実現に向けて、SIビジネスをベースに「IoT」「自動運転」「FinTech」「AI」などの新しい分野に積極的に取り組み、グループの総力を挙げて企業価値向上に努めています。これらは将来に向けた事業基盤の強化を目的としており、新しい技術分野、成長分野での業務拡大に貢献するものと期待しております。

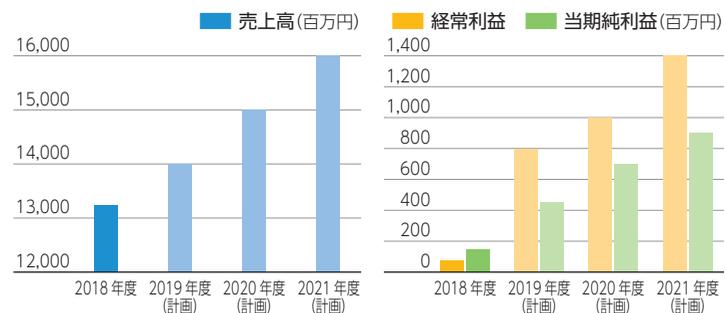
取り組み状況は次の通りです。

- ①クラウドサービス
「Fleekdrive」をインフラに、他のサービスとの連携やアプリケーションの搭載、AI技術を取り入れるなど、新しいサービスの創出に繋がる研究開発を推進しています。また、クラウドサービス事業を会社分割(新設分割)し、2019年5月に新設する子会社(株)Fleekdriveに承継する予定です。

中期計画の連結売上高・利益目標

	2018年度(実績)	2019年度(計画)	2020年度(計画)	2021年度(計画)
売上高	13,228	14,000	15,000	16,000
(経常利益率)	(0.6%)	(5.7%)	(6.7%)	(8.8%)
経常利益	78	800	1,000	1,400
当期純利益	147	450	700	900

注) 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を表します



②IoT

当社グループが持つ高性能センサーを利用したソリューション見守り支援システム「いまいルモ」や「IoT/予知保全システム」にAIを組み合わせた新サービス創出の可能性を引き続き検証します。また、IoTの更なる普及に欠かせない技術と言われるエッジコンピューティング*の展開を図ります。

③自動運転関連

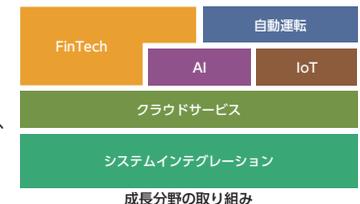
自動車業界の支援体制の更なる強化と農業、医療など他の業界の自動化にも取り組みます。同時に、自動運转向けのOSや各種技術の取り組みを強化し、エンジニアの育成を推進します。

④FinTech

FinTech関連の開発案件の獲得を目的とした技術協力を中心に、ブロックチェーンやバーチャルカレンシー関連の開発案件に対して活動を継続します。

⑤AI

自社開発した各種ソリューションに、AIを取り込む開発を継続して検討しています。また、社会のAI化ニーズ増大を受けて、提案活動を推進します。



Q 今後の成長戦略

A SIビジネスにおいては、金融業向けソフトウェア開発、製造業向け組み込みソフトウェア開発などの優良案件によりフォーカスし、確実なプロジェクト運営を行うことで、売上・収益の安定的な拡大を図ります。また、開発リソースの強化・確保に努めるとともに、社員に対し、新技術獲得のための教育の場を増やし、競合優位性を築いてまいります。ストック型ビジネスにおいては、SIビジネスに並ぶ収益事業化を目指し、顧客基盤の一層の拡充を図ります。

中期計画は、昨年収束した不採算案件の影響により、新規プロジェクトの立ち上がりが遅れる見通しであり、2019年度の売上計画が低いものとなっておりますが、2019年下期より持ち直し、V字回復する計画です。

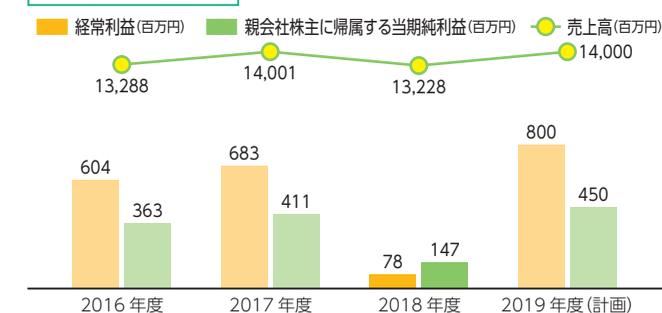
Q 株主の皆様へ

A 株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと認識しておりますが、安定的な経営基盤の構築にも努め、両者のバランスの取れた経営を目指しております。このような方針に基づき、適切な株主還元のあり方について慎重に検討を重ねた結果、配当金による利益還元をより充実させていくことが適切であると判断に至り、2018年12月期の配当を1株あたり15円に増配するとともに、2018年12月31日基準日より、株主優待制度を廃止いたしました。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。2019年は全てが良い方向に向かうよう、「一陽来復」の年と決めました。昨年は低迷した年になってしまいましたが、今年はV字回復を行い、そして飛躍を目指す所存です。株主の皆様には、引き続き倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

* エッジコンピューティングとは、「端末の近くにサーバを分散配置する」ネットワーク技法の一つ。ユーザーや端末の近くでデータ処理することで、上位システムへの負荷や通信遅延を解消する。

財務データ

収益



当期連結収益面のPOINT

生損保、製造業、投資顧問業向けの業務系ソフトウェア開発、及びグループ子会社においては、自動運転関連を含む自動車メーカー等への組み込み系システム開発支援などが好調であったものの、本体の金融業向けSI受託開発におけるプロジェクト損失が影響した結果、売上高は前期比**5.5%↓**の**13,228百万円**となり、親会社株主に帰属する当期純利益は**同64.2%↓**の**147百万円**となりました。

財務



当期連結財務状態のPOINT

第三者割当による増資や投資有価証券の売却に伴い現預金が増加し、流動資産が**1,964百万円↑**、固定資産においては、保有非上場株式が上場となり投資有価証券が増加し、**142百万円↑**となった結果、当期末総資産は、前期末比**21.1%↑**の**12,092百万円**、当期末純資産は**同33.5%↑**の**6,477百万円**となりました。

キャッシュ・フロー計算書(要旨)	2016年度	2017年度	2018年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	441,354	△ 49,656	798,257
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 354,821	△ 10,548	235,109
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 177,164	△ 109,489	1,388,011
現金及び現金同等物の期末残高	2,585,447	2,415,752	4,837,130

(千円)